株主・投資家との対話の推進状況
ご報告

株式会社 山善

株主・機関投資家との対話推進内容①

当社は、当社グループの持続的な成長と企業価値向上に向けて、株主・機関投資家との建設的な対話を促進するため、IR活動を積極的に行っております。2022年度における株主・機関投資家との対話及び推進内容につきまして、以下の通りご報告いたします。

2022年度　機関投資家との対話　実施概要			
株主・機関投資家との対話の主な対応者	CEO：決算説明会 2回（2Q・本決算）・CFO:スモールMTG（3Q）・広報・IR室 責任者（1on1ミーティング　33回/年）		
対話を行った投資家の概要	投資スタイル	グロース	7
		バリュー	13
		GARP	2
	対応者の担当分野	ファンドマネージャー	3
		ポートフォリオマネージャー	6
		アナリスト	24
対話の主なテーマや株主の関心事項	当社のビジネスモデル、市場環境、成長投資分野、PBR1倍割れへの課題意識、資本政策（株主還元方針）等		
対話において把握された株主の意見・懸念の経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況			
2023年5月実施の取締役会において2022年度のIR活動によって得られた株主・投資家の意見・懸念点のフィードバックを実施、その内容を基に議論が行われました。			

株主・機関投資家との対話推進内容②

対話の事例	
国内生産財事業における御社の直接顧客は二次卸である販売店だと思うが、中小が多く事業承継問題等で今後減少していくのではないか？その影響と対策は？また、**ユーザーも同じように町工場等が減少、**且つ（M&A等により）**大型化し、メーカーが直販するケースが増える動き**もあるため、**御社のマーケットはシュリンクするのでは？**	マーケット構造から言うと日本の流通関連においては中小企業が大勢を占めているのでメーカーが直接販売するのは難しい。**二次卸の先のユーザーも減ってはいるが、直ちに大きな変化がある訳ではない。全て我々が網羅している訳ではないので、選別しつつここの部分でもまだまだやっていきたい。**事業承継向けのファンドに出資もしており、**後継者問題を抱える中小の要望があれば当社グループに加えることも行い、マーケットの維持拡大に尽力している。** また、**ユーザーの大型化については、仕入先を含む中堅大手メーカーに対し専門部隊を作って独自にアプローチしており、徐々に伸びている。** 当社が取り扱う製品を製造するメーカーが属する市場の規模を13兆円程度とすると、我々の取扱高は卸売業者として**規模的にはトップ水準ながらも2,500億円程度であり、伸びしろは十分にある**と考えている。
一次卸の競合も淘汰が進んでいるのではないか？その**残存者利益を御社は享受していると考えられるか？**	この業界は参入が難しく淘汰は起こりにくかったが、昨今は合併など業界再編の動きも見られ始めており、今後も出てくるのではないかと思っている。当社は業界第1位なので優位に進められると思っているが、非効率な先を抱えることにならないように市場を注視しながら対応していく。**残存者利益は享受できる立場だと考えている。**この業界でも人材の流動化が起きているので優秀な方は採用したい。
PBR0.8倍と1倍割れだが**課題意識、改善策**は？	経営レベルでも課題と認識している。**当社の事業モデルがわかりにくいと認識しているので市場からの理解を促進するためにＩＲ活動を積極化する。**稼ぐ力も上げていくために投資も積極的に行い、成長率や利益水準を上げていく。その上で、財務の健全性を保ちながら資本政策も重視して進めていく。
中計で**自己資本比率40～45%という指標を掲げられているが、この数字以上を目指すという意味合いなのか？**	当社の事業体においては、財務安定性は信用格付けと資本効率を考えるとこの位が妥当な水準だと考えている。これ以上に高めるということではない。**今期の結果次第ではあるが、資本政策をしっかり考えなければいけない状況であると、会社としては認識している。**
このままいくと近いうちに**自己資本比率が45%は超えてしまうと思うが、自社株買いや増配は行わないのか？**	**当社の事業リスクに対して要求される水準以上に過剰な資本を維持する考えはない。** ある一定のところに到達したら、**クレジットサイドとエクイティサイドの両面の満足を目指していかなければいけない**と強く認識している。

ともに、未来を切拓く

YAMAZEN

【将来情報に関するご注意】
「この資料には、当社の計画及び業績見通し等が含まれております。将来の計画や予想数値などは、現状の入手可能な情報により、計画・予測したものであります。実際の業績等は、今後の様々な条件・要素によりこの計画等とは異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。なお、金額は特に注記が無い場合は百万円未満切捨てにて表示しております。」